

「マスコミ学者」としての南博

——新聞記事データベースなどをもとに

難波功士

マス・コミュニケーションの研究者である南博は、その生涯を通じて、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどマスメディアに登場し続けてもきた。当初はアメリカ帰りの新進気鋭の社会心理学者として、さまざまな社会的な事件や事象について分析を加えていた南だが、やがて南自身の社会的な実践も注目の的となっていく。戦後の市民運動や民衆的な芸術文化運動にかかわるとともに、1952年には電撃的な訪中によって大々的に報道され、以後、アメリカのみならず中国通の知識人としても発言を続けていく。こうしたマスメディアでの頻繁な露出によって、「マスコミ学者」ないし「タレント学者」としての地位を確立した南は、ほぼ半世紀にわたって活躍を続け、その有名性ゆえに、彼自身の私生活なども世間の関心を集めてきた。本研究ノートでは、新聞記事データベースなどを活用し、学術面以外での南の事跡を概観する。